



「くらしの支援かけはし」が開く
バザーも人気（大阪府枚方市）

一戸建て住宅に比べ近所付き合いが進みにくいマンション。住民同士が本音で付き合える「ミニユーティー」が注目され始めた。高齢化の進展や子育ての悩みなどに直面した住民が、助け合おうと立ち上がったものだ。昔ながらの温かな心や人情にあふれた現代マンションの人間模様をのぞいた。

「あのおっちゃんの顔 網戸の張り替えや包丁研ぎ、切れた電球の交換など、全世帯から依頼をんかいな」「心配する前に電話してみようや」——受け、シニア世代中心の一都心部から約三十分、大阪府枚方市のマンション「労住まきのハイツ」は、今も濃密な近所つき合いが息づく。ある住民は「マンションで独り暮らしする隣人が亡くなつたことに気づかない『孤独死』は住民の恥。ここではそんなことはあり得ない」と断言する。

「ミニユーティー」の中核が、2000年10月設立のボランティアグループ「くらしの支援かけはし」。金西棟、三百八戸のうち六十歳以上の世帯が半数近くを占める。住民の高齢化が進む中、住民を気安く頼める雰囲気づくりを狙い、住民約六十人が立ち上げた。

一戸建て住宅に比べ近所付き合いが進みにくいマンション。住民同士が見えたけど、まだ寝と研ぎ、切れた電球の交換など、全世帯から依頼をんかいな」「心配する前に電話してみようや」——受け、シニア世代中心の一都心部から約三十分、大阪府枚方市のマンション「労住まきのハイツ」は、今も濃密な近所つき合いが息づく。ある住民は「マンションで独り暮らしする隣人が亡くなつたことに気づかない『孤独死』は住民の恥。ここではそんなことはあり得ない」と断言する。

「あのおっちゃんの顔 網戸の張り替えや包丁研ぎ、切れた電球の交換など、全世帯から依頼をんかいな」「心配する前に電話してみようや」——受け、シニア世代中心の一都心部から約三十分、大阪府枚方市のマンション「労住まきのハイツ」は、今も濃密な近所つき合いが息づく。ある住民は「マンションで独り暮らしする隣人が亡くなつたことに気づかない『孤独死』は住民の恥。ここではそんなことはあり得ない」と断言する。

マンション住民 コニティーで支え合

高齢化で危機感

日常の雑事、子育て支援も

声が多かったので、感謝の気持ちとして受け取ることにした（立石さん）。利用者はシニア世帯だけでなく、子どもを持つ若年層にも広がる。

しかし、住民の高齢化性約三十人が、日常の雑事を近所同士でサポートする。住人が育児を助け合うのが目的で事務局の金を抱えたりしている住民にとつて、身近な「ミニユーティー」は心強い存在を訴える。

（23）は、長男の詞音君（7）、事実婚のバンド

法を巡りもめるケースが多い大規模修繕で、管理会社に委託せずスムーズに住民の合意をまとめた。「日ごろからついた。」「立石さん（立石）への不安が、ミニユーティー誕生を促している。高齢化が進む。柏良江会長は「男性も巻き込み、マンション全体に支援の輪を広げたい」と意気込む。みるのは、他の子育て世帯の人やNPOメンバー（23）は、長男の詞音君（7）と胸を張る。ようだ。

マンションは一戸建てに比べると、近所付

き合いが少なくなりがちだ。管理会社が取りまとめてもらう」としているめ役になるケースが多い。埼玉県草加市

「草加旭町団地」では毎月二回、平均年齢六十歳の千葉県で活動する特定非営利活動法人（NPO法人）「ニュースタート事務局」は、同県市川市で昨春立ち上げた「子育て長屋」で育児に特化した「ミニユーティー」を創立しているNPO法人日本住

宅管理組合協議会の原直男副会長は「マンション管理組合な

ど手作り料理を囲んで話を輪を咲かせる。

同団地に住むシニア女性約三十人が、日常の雑事を近所同士でサポートする。住人が育児を助け合うのが目的で事務局の金を抱えたりしている住民にとつて、身近な「ミニユーティー」は心強い存在を訴える。

（23）は、長男の詞音君（7）として、その必要性

代筆をはじめ日常のまごまとした用事を会員が無料で引き受ける。

（23）は、長男の詞音君（7）として、その必要性